

『インターナショナル・ヘラルド・トリビューン』の
創刊(1887年)から2013年までの記事をフルテキスト検索

International Herald Tribune 1887-2013

International Hera

1887

2013

本データベースは1887年の創刊から2013年10月までの『インターナショナル・ヘラルド・トリビューン』の記事を掲載します。創刊当初の紙名は、『ニューヨーク・ヘラルド』ヨーロッパ版、その後『ニューヨーク・ヘラルド・トリビューン』ヨーロッパ版を経て、『インターナショナル・ヘラルド・トリビューン』へ変更されました。電子化に際しては原紙を直接スキャニング、OCR処理を施し、フルテキスト検索を実現しています。ナチスドイツ占領期の1940年6月12日から1944年12月21日までは発行が停止していたため収録されていません。また一部権利関係により、不掲載の記事があります。『インターナショナル・ヘラルド・トリビューン』(IHT)を継承する形で現在の『ニューヨーク・タイムズ』(NYT)国際版が発行されたため、IHTは以前からNYT国際版として発行されてきたと見なされることがありますが、IHTがNYTと記事を共有するのは、NYTがIHTの100%親会社になった2002年以後のことで、それ以前のIHTはNYTが共同所有者だった時代を含め、独自の編集体制の下で発行されてきました。

20世紀における世界のアメリカ化と異文化に対するフランスの態度の変化を克明に記録

19世紀末パリで創刊されたIHTは、世紀末、ベルエポックから二つの大戦を経て、米ソ冷戦、ポスト冷戦時代まで、パリからフランスとヨーロッパと世界を観察しました。当初、少数で発行された新聞は、第一次大戦後パリを訪問するアメリカの実業家、文化人、旅行者が増加するのに伴い発行部数を増加させます。第二次大戦後はアメリカの覇権の下、アメリカの視点からヨーロッパと世界の出来事に切り込み、パリ以外にも製作・販売拠点を拡大、世界のアメリカ化、英語化に伴い160カ国以上で販売されるグローバルな新聞に成長しました。20世紀前半はアメリカ人などの異邦人を魅了していたフランスも、20世紀後半には異文化に対する姿勢に変化が見られるようになります。政治の世界では、ド・ゴール時代にアメリカとは距離を置いた独自外交を進める一方で、文化のレベルではマクドナルドに代表されるアメリカ文化が日常生活のありふれた光景になります。IHTは、20世紀における世界のアメリカ化と異文化に対するフランスの態度の変化を克明に記録しています。

多彩なコラムや執筆陣

IHTの歴史には、多彩なコラムや執筆陣が名を残しています。戦間期のセーヌ左岸カルチエ・ラタンを紹介した”In the Latin Quarter”や”Latin Quarter Glimpses”、エリオット・ポール(Elliott Paul)やユージン・ジョラス(Eugene Jolas)ら戦間期パリのアメリカ人作家、大西洋単独飛行でパリに降り立った直後のリンドバーグへの単独インタビューに成功し、30年代はドイツ、イタリア、ソ連からファシズム、共産主義の動向を伝え、ドイツのソ連侵攻を予測した伝説的特派員ラルフ・バーンズ(Ralph Barnes)、80年代以降多くの時評を寄せたヘンリー・キンゼンジャー、1960年代以降40年以上に亘りコラムの連載を続けたウィリアム・パフ(William Pfaff)、“Paris After Dark”や”Art Buchwald”で半世紀以上に亘りユーモア溢れるコラムを書き続けたアート・バックウォルド(Art Buchward)、“Our Times in Rhyme”で韻文形式による時評という新境地を開拓した詩人ポーリー・クロフォード(Pauline Avery Crawford)、スポーツ関係のコラムニストで、劇作家ユージン・オニールを魅了したスパロー・ロバートソン(Sparrow Robertson)、“Today and Tomorrow”のコラムを長期連載したウォルター・リップマン(Walter Lippmann)、“Inside Europe”などインサイド物で名高いジョン・ガンサー(John Gunther)、30年代後半”On the Record”で時事問題にシャープに切り込んだド

CONSORT, THE DUCHESS OF HOHENBERG
G THROUGH STREETS OF SARAJE
COUPLE DRIVING TOGETHER



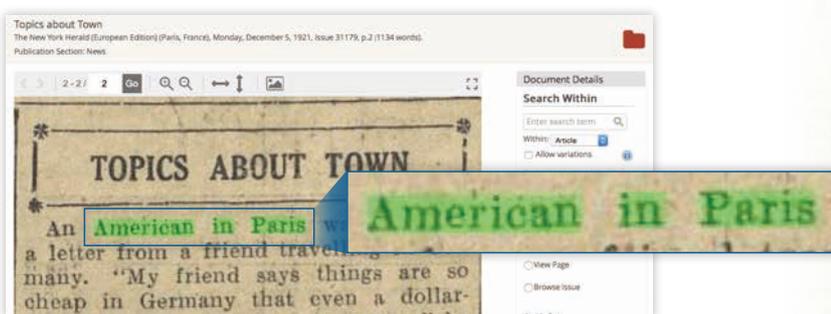
ロシー・トンプソン (Dorothy Thompson)、30年代のスタヴィスキ疑獄事件に端を発するパリの大暴動を間近で観察したウィリアム・シャイラー (William Shirer)、ロバート・キャパとともにソ連を訪問、探訪記を寄稿したジョン・スタインベック、ラジオやテレビなどメディア批評の分野で一時代を築いたジョン・クロスビー (John Crosby)、ファッションを批判的に取り上げ、ファッション批評の新境地を開拓したアイベイ・ドーシー (Hébé Dorsey) 等、多彩な執筆陣が健筆を揮いました。IHTは、1930年代ファシズムに宥和的な論調に傾きました。しかし、紙面がファシズム一色に染まったわけではなく、バーンズやトンプソンやシャイラーなど反ファシズムの立場のコラムも同時に掲載されました。この時代のIHTには、共産主義に対する防波堤としての役割をファシズムに期待する世論とファシズムにおける自由の抑圧を批判する世論が相克した時代状況がそのまま映し出されています。

▶▶ バナー・ヘッドラインと写真を使い、映像の時代に相応しい紙面作りを追求

『ニューヨーク・ヘラルド』国際版時代のIHTを見てすぐに目に止まるのは、その大胆な紙面作りです。『ザ・タイムズ』、『テレグラフ』、『デイリー・メール』など、同時代のイギリスの新聞が一面に広告を掲載していた時代に、IHTは一面にバナー・ヘッドラインを使い、トップニュースが一目で分かるような紙面作りを行ないました。20世紀初頭、映画の到来を前に、新聞人たちは新しい紙面作りを追求しました。大胆な見出しと写真を多用したIHTの紙面は、映像の時代20世紀に相応しい新聞の見本とも言えるものであり、国際的な新聞というイメージも手伝い、映画人によっても注目され、しばしば映画の中で使われてきました。



トップページ



一字一句をフルテキスト検索 (検索語はハイライト表示)

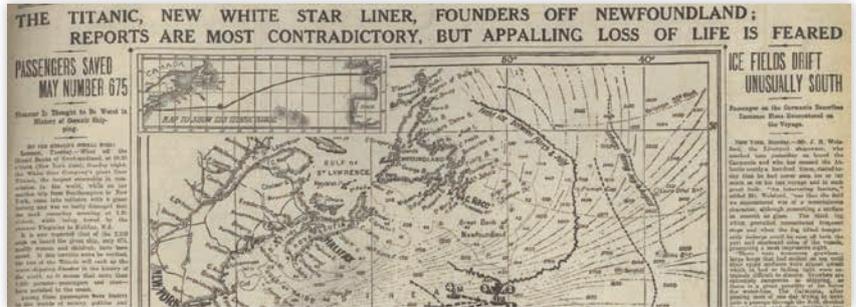
文書表示画面では、ページ送り、画面の拡大・縮小、全画面表示、記事単位での表示、ページ単位での表示、輝度・コントラスト調整のビューワ機能の他、ブックマーク、PDFへのダウンロード、OCRテキストのダウンロード、印刷、書誌自動生成、書誌エクスポート、メール配信、タグ付与の各種機能が実装されています。

1887-1918

- ◆ 1909 マリネッティ、仏紙『フィガロ』に未来派宣言を発表 — 1
- ◆ 1909 ディアギレフのロシアバレエ団、パリデビュー — 2
- ◆ 1912 豪華客船タイタニック号沈没 — 3
- ◆ 1913 ストラヴィンスキー『春の祭典』、シャンゼリゼ劇場で初演 — 4
- ◆ 1913 藤田嗣治渡仏 — 5
- ◆ 1914 オーストリア皇太子夫妻サラエボで暗殺、第一次大戦へ — 6
- ◆ 1915 イギリス客船ルシタニア号、ドイツ軍潜水艦により撃沈 — 7
- ◆ 1917 ダンサーのマタ・ハリ、スパイ容疑で銃殺刑 — 8
- ◆ 1917 ロダン死去 — 9
- ◆ 1918 第一次大戦終結 — 10



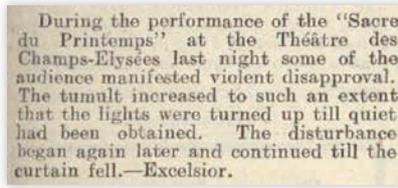
2 シャトレ座でのアンナ・パブロワとニジンスキー (June 5, 1909)



3 「タイタニック号ニューファンドランド沖で沈没、情報は錯綜、大惨事の恐れ」 (April 16, 1912)



1 未来派の詩人マリネッティと批評家ハーシュがパリのバルク・デ・プランで決闘 (April 17, 1909)



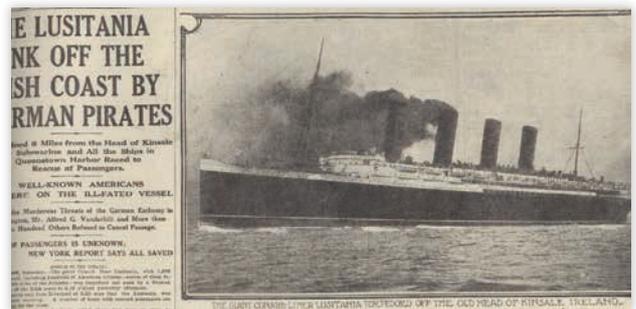
4 「演奏中一部の聴衆が激しく不満の意思表示を行ない、騒ぎが拡大し照明が灯され、静寂が戻ると照明が消された」 (June 3, 1913)



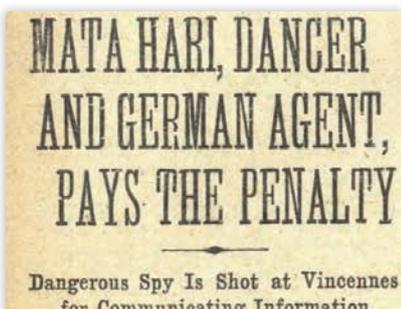
5 「フジタ氏は4年前からパリに滞在する日本人画家で、その独創的で力強い画風は本物の個性を示している」 (November 27, 1918)



6 「オーストリア皇太子フェルディナント大公と皇太子妃、サラエボをパレード中に暗殺」 (June 29, 1914)



7 100人以上の自国民が乗っていたアメリカではドイツ非難の声が高まった (May 8, 1915)



8 「オランダのダンサー、マタ・ハリはスパイ活動と敵国への内通により昨今朝、ヴァンセンヌで処刑された」 (October 16, 1917)



9 「ロダンの死により、フランス精神の最も剛健で男性的な側面を体現する人物をフランスは喪失した」 (November 18, 1917)



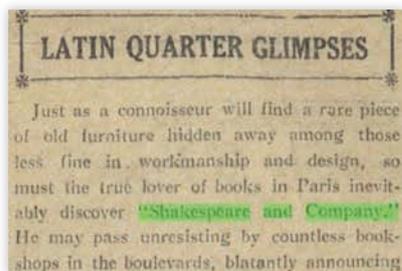
10 「月曜日朝5時40分に休戦合意、11時に交戦状態を停止」中央の肖像画は「連合軍を勝利に導いた男たち」として、中央にフォッシュ元帥(仏)、左下から時計回りにアルベールベルギー国王、ダグラス・ヘイグ元帥(英)、ジョン・パーシング將軍(米)、アルマンド・ディアス將軍(伊) (November 12, 1918)

1919-1936

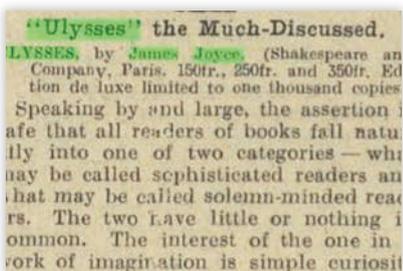
- ◆ 1919 ヴェルサイユ条約調印 — 1
- ◆ 1919 シルヴィア・ビーチのシェイクスピア・アンド・カンパニー書店 — 2
- ◆ 1922 ジェイムズ・ジョイス『ユリシーズ』、シェイクスピア・アンド・カンパニー書店から限定出版 — 3
- ◆ 1922 ムッソリーニ、イタリア首相に就任 — 4
- ◆ 1925 現代装飾・工業美術国際展覧会
- ◆ 1925 ジョセフィン・ペーカー、シャンゼリゼ劇場でパリデビュー — 5
- ◆ 1927 リンドバーグ、大西洋単独飛行に成功 — 6
- ◆ 1928 ガーシュイン『パリのアメリカ人』作曲 — 7
- ◆ 1931 ウォルター・リップマンのコラム Today and Tomorrow 始まる
- ◆ 1933 ヒトラー、ドイツ首相に就任
- ◆ 1933 スタヴィスキ疑獄事件 — 8
- ◆ 1934 ヘンリー・ミラー『北回帰線』パリのオペリスク出版より刊行 — 9
- ◆ 1936 人民戦線内閣成立



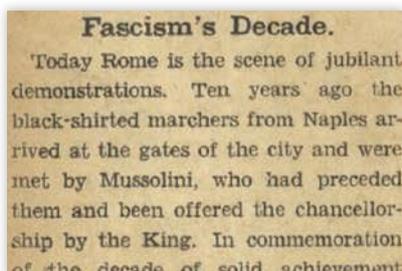
1 左側の写真はヴェルサイユ宮殿鏡の間での調印式、右側の写真は会場を後にするドイツ全権代表団 (June 29, 1919)



2 「パリの書物愛好家ならシェイクスピア・アンド・カンパニー書店を見逃すはずはあるまい」 (December 23, 1920)



3 「話題の書、ジェイムズ・ジョイス著、シェイクスピア・アンド・カンパニー書店、豪華版1,000部限定」 (April 17, 1922)



4 経済を好転させ欧州で最も安定した国家を築いたと、社説で首相就任10周年にムッソリーニを賞賛 (October 27, 1932)



5 パリに到着した黒人ダンサー一団の中心スターとしてジョセフィン・ペーカーを紹介 (September 24, 1925)



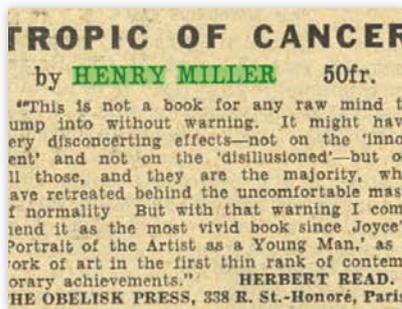
6 パリで熱狂的歓迎を受けた後、アメリカ大使館に身を潜めていたリンドバーグを探し出したラルフ・バーンス記者は単独インタビューに成功した (May 22, 1927)



7 ニューヨーク・フィルと『パリのアメリカ人』を演奏し、指揮者デビュー (September 9, 1929)



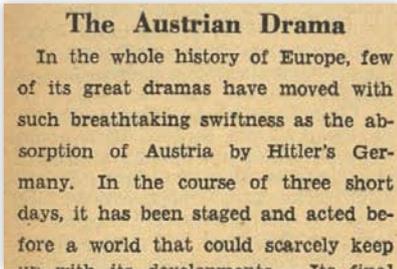
8 「パリの暴徒議會を襲撃、軍出動」政界疑獄事件を発端とする大暴動は2年後の人民戦線内閣成立の契機となった (February 7, 1934)



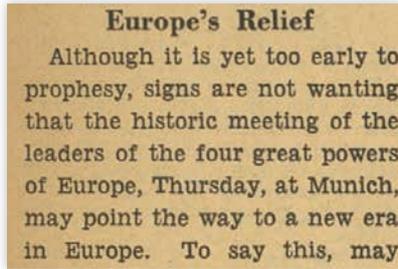
9 「ジョイス『若き芸術家の肖像』以来最も鮮烈な作品」とのハーバート・リードの推薦文付き (September 16, 1935)

1937-1949

- ◆ 1938 ナチスドイツ、オーストリアを併合 — 1
- ◆ 1938 ミュンヘン会談で対独宥和政策が頂点に。ドイツ、ズデーテン地方を併合 — 2
- ◆ 1938 ドイツでユダヤ人への迫害（水晶の夜事件） — 3
- ◆ 1939 第二次大戦勃発 — 4
- ◆ 1940 ナチスドイツのパリ入城、発行停止
- ◆ 1944 パリ解放、発行再開 — 5
- ◆ 1945 ナチスドイツ無条件降伏 — 6
- ◆ 1947 アメリカ封じ込め政策 — 7
- ◆ 1947 創刊 60周年 — 8
- ◆ 1948 スタインベック、A Russian Journal 連載（写真キャパ） — 9
- ◆ 1948 ボクシングのタイトルマッチでフランス人のマルセル・セルダン、アメリカ人のトニー・ゼールを倒す — 10
- ◆ 1949 パリの夜の生活を描いたアート・バックウォルドのコラム Paris After Dark 始まる
- ◆ 1949 コカコーラ、パリで販売開始 — 11



1 今や既成事実であるとして、社説でナチスドイツによる併合を追認 (March 14, 1938)



2 ヨーロッパの新しい時代の到来を告げるものであると、社説で会談の成果を歓迎 (October 1, 1938)



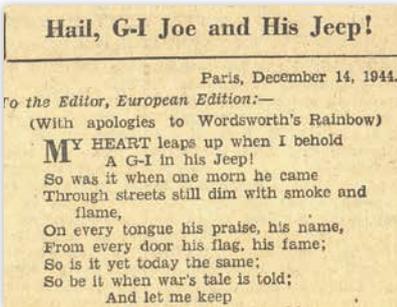
3 「反ユダヤ主義の波ドイツを席卷、警察が傍観する中シナゴグが放火炎上」 (November 11, 1938)



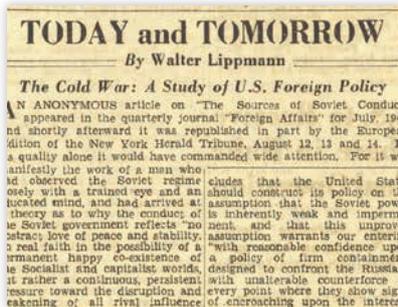
4 「ドイツ軍、ポーランドを侵攻、フランスとイギリス総動員命令」 (September 2, 1939)



6 「目撃者が語るベルリンの廃墟」「ナチス無条件降伏」写真は勝利に歓喜するタイムズスクエアの群衆 (May 8, 1945)



5 ポーリン・クロフォードが発行再開初日に寄せた詩 (December 22, 1944)



7 封じ込め政策を理論的に基礎付けたジョージ・ケナン の X 論文 に対するリップマンの批判的検討 (September 2, 1947)



8 トルーマン大統領の祝電 (October 5, 1947)



9 ロバート・キャパとともに2ヶ月ソ連に滞在、普通の市民の日常生活を観察した (January 14, 1948)



10 セルダンの勝利の知らせにパリ市民はパリ解放以来とも言える歓喜に沸いた (September 23, 1948)



11 「発売はパリ市民が気付かないほど控えめだった。コカコーラの担当者いわく、『フランス人はアメリカ流宣伝には反応しません。私たちはフランス人をアメリカ化しようとしていると思われたくないのです』」 (December 31, 1949)

1950-2013

- ◆ 1954 アルジェリア戦争 (-1962)
- ◆ 1954 ディエンビエンフー陥落。フランス、インドシナから撤退へ —1
- ◆ 1957 アート・バックウォルドのコラム Art Buchwald 始まる —2
- ◆ 1958 フランス第5共和政、ド・ゴール大統領に就任
- ◆ 1958 フランス、ナボコフ『ロリータ』を発行停止処分 —3
- ◆ 1960 フランス初の核実験 —4
- ◆ 1963 ド・ゴール、イギリスのEEC加盟申請を拒否 —5
- ◆ 1963 アメリカでモナ・リザ展 —6
- ◆ 1968 パリ5月革命 —7
- ◆ 1969 ド・ゴール退陣
- ◆ 1972 マクドナルド、フランスに一号店 —8
- ◆ 1987 創刊100周年
- ◆ 1989 フランス革命200周年 —9
- ◆ 1992 ユーロディズニーランド、パリで開業



1 「56日間の包囲を経てディエンビエンフー陥落」写真はベトナムの外相、副大統領と会談するフランス外相 (May 8, 1954)



2 ピカソの大ファンである恋人のためにピカソの署名入りの絵を手に入れて欲しいとのアメリカ人青年の依頼を前回のコラムで紹介。ピカソと食事の約束をしていた写真家が偶然そのコラムを読み事情を説明すると、ピカソはその場で宛名入りの絵を描いた。絵は写真家からバックウォルドに届けられ、コラムで紹介された。(July 4, 1962)



3 「良俗に反する」として発行停止に。「チャタレイ夫人の恋人」も同様の処分を受けた (December 5, 1958)



4 「サハラでのフランスの核実験、世界の批判を招く」(February 15, 1960)



5 イギリスのEEC加盟を拒否し、アメリカに対してはミサイル供与の申し出を撥ね付け、独自外交を追求した (January 15, 1963)



7 「パリの暴動、最悪の暴力に発展」学生の反乱は労働者のゼネストに発展、翌年のド・ゴール退陣の契機となった (May 25-26, 1968)



6 アメリカでの展示はアンドレ・マルロー文化大臣の肝入りで実現した。写真はお披露目会でのマルロー夫妻とケネディー大統領夫妻 (January 10, 1963)



8 フランスの典型的な郊外の町クレライユにオープン。記事は、開店を待ちかねてパリから来たフランス人少女たちの無邪気な様子を伝えている。(September 6, 1972)



9 「壮観なパレード。フランス、革命200周年を祝う」写真はシャンゼリゼ通りを行進する共和国親衛隊

〈 Gale Primary Sources で横断検索できるデータベース 〉

17th and 18th Century Burney Collection
17th and 18th Century Nichols Newspapers Collection
19th Century UK Periodicals
American Civil Liberties Union Papers, 1912-1990
American Fiction
Archives Unbound
Archives of Sexuality & Gender
Associated Press Collections Online
Brazilian and Portuguese History and Culture
British Library Newspapers
China from Empire to Republic
Crime, Punishment, and Popular Culture, 1790-1920
Daily Mail Historical Archive, 1896-2004
The Economist Historical Archive, 1843-2011
Eighteenth Century Collections Online
The Financial Times Historical Archive, 1888-2010
The Illustrated London News Historical Archive, 1842-2003
The Independent Digital Archive, 1986-2012
Indigenous Peoples: North America
International Herald Tribune Historical Archive, 1887-2013
Liberty Magazine Historical Archive, 1924-1950
The Listener Historical Archive, 1929-1991
The Making of Modern Law: Foreign Primary Sources
The Making of Modern Law: Foreign, Comparative, and International Law, 1600-1926
The Making of Modern Law: Legal Treatises, 1800-1926
The Making of Modern Law: Primary Sources
The Making of Modern Law: Trials, 1600-1926
The Making of Modern Law: U.S. Supreme Court Records & Briefs, 1832-1978
The Making of the Modern World
Nineteenth Century Collections Online
Nineteenth Century U.S. Newspapers
Picture Post Historical Archive
Punch Historical Archive, 1841-1992
Sabin Americana, 1500-1926
Smithsonian Collections Online
The Sunday Times Digital Archive
The Telegraph Historical Archive
The Times Digital Archive
Times Literary Supplement Historical Archive
U.S. Declassified Documents Online
Women's Studies Archive: Women's Issues and Identities
(2017年9月現在)



すべてのコンテンツと機能をお試しいただける1ヶ月の無料トライアルをご提供しております。
商品に関するお問い合わせは、センゲージラーニング株式会社までお願いします。
Tel: 03-3511-4390 E-mail: GaleJapan@cengage.com